「東部大会こそ」・・・　関根先生の原点

春日部高校陸上競技部は3年ぶりとなる東部地区優勝を果たした。
再びＯＢの駒崎先生が総合杯を授与してくださったようだが、春高が地区大会を勝つということは大きな意味を持つ。

★後藤均先輩の「春高陸上部」とは
後藤均先輩は、お会いするたび口癖のように私に語る。
「いいかい、野本くん。春高はね、全員で東部大会に入賞し県大会に進もう！というチームなんだ。これは関根先生の基本精神なんだよ。」

セレクトなしでインターハイ入賞者を数十人以上育成した御大・関根先生と、
砲丸投げで「国内全てのタイトル、記録」を獲得した超人・後藤先輩が
「東部地区大会最重要説」を唱える事が、春高の源流を見たような気がする。

「私も若いときは、もっと厳しくトレーニングして全国総合優勝を常に狙うチームにすべきだ！・・と考えた事もあった。関根先生にも、そのように進言した事もあるんだ。
・　・・しかし長い時間が経って、ようやくそれが間違いであったと気がついたよ。
顔から火がでるほど恥ずかしいと思った。全国の名だたる「強豪校」を見てきて分かったんだ。
そこの卒業生ＯＢ、みなが満足して競技を楽しんでいたかというと、そうでもないんだ。
逆に嫌な思い出としか感じていない者も少なくない。
好記録選手を優先獲得、優遇し、好成績だけを追い求めるチームを高校で作ると軋轢が生じる。
学校の運営方針でそうせざるを得ない高校もあるだろう。しかし不運にも結果を残せない選手は日陰の身になる。
楽しいはずが無いよ、それでは。

　高校時代は人格の形成に最も大きな足跡を残す時期だ。
その時期に、自分の意思で、強制はされず競技を全うするという事はその後の人生を非常に豊かなものにする。
競技の優劣、年齢関係で決して拘束してはいけないんだ。

それが関根先生の考えだ。
「春日部高校陸上部」に限定するとそういう指導方法が一番良いと思う。
春高のＯＢ会が、これほどの規模を維持できるのも、その賜物なのだよ。・・・・」

この言葉は社会人としての私の大きな糧になっている。

こんな私でも町医者をやって、勤務医や女性スタッフを指導、監督する。
その上で常に考えさせられ思慮している。技量のレベルだけで叱責する事はしない。
かといってミスを野放しにもしない。
一社会人として尊重した上で、自主自立したスタッフとなれるよう、諭している。
各々が「ベスト」を尽くせば、（ベストを尽くしたという自覚があれば）
仕事は「楽しい」ものであるのだ。

その2へ

筆　撮　37回　　のもと歯科